雨の中、

三百名が参集した。そして

山陽新聞社さん太ホールで行った。 今年度の定期総会を四月二九日

新たに十五名の入会があった。

天野会長の挨拶。そして昨年度の

숲

千

円 円

以

降

入

숲

千

員

募

集

中

百名が集う! 1 0 号 2014年7月5日 + 年 슾 月

基調講演、パネル討論は 「軍師官兵衛

▲講師4名と懇親会での記念写真 に て) オ ス

> 事業報告、並びに今年度の事業計 一役員が提案され、承認された。

画

NHK大河ドラマを交えた話に聴き 入った。姫路でも官兵衛の大河ドラ マ化に数年かかったとのこと。 パネル討論では、 田美江子さんの 基調講演は姫路市の歴史研究家 竹本さんは「荒 「軍師官兵衛

展

平成二六年度の歴研活動

がは四

月

瀬戸内市の松尾氏は官兵衛の父祖の で、官兵衛と宗治が対峙する場面を 木村重」を、清水氏は『新書太閤記 その後の懇親会には四四名が参加 備前福岡をそれぞれ紹介した。

講師との親交を深めた。

前福岡にあ 福岡 の由来は辛酸 講演を聴い 7

会員 楠敏明

今年の定期総会で、

黒田美江子氏

を学校で教えることを禁止した。 を排除し、かつ父母達の習った国史、 教育から武術 を抱いたマッカーサーは日本の戦後 まった。旧制中学の凛々しさに恐れ つのを忘れて聴き入った。 HKの大河ドラマを交え、 講演「軍師官兵衛」を聴いた。 マッカーサーの占領政策から始 考え方を入れての講演に時の経 (柔道、 剣道) 歴史の見 と修身 Ν

珠湾) 真只中、 進からか、 では戦争の反省からか、復興への邁 聞く。それに比べ、日本の戦後教育 の批判を浴びた最初の世代である。 国や古里に対する愛情、 躊躇していた感がする。 にくい。 アメリカではパールハーバー のことは学校で教えていると 私は、 在学していて、 日本の歴史を教えるのを かつて、 愛着がわき それでは祖 無国籍人と 大学紛争の 真

歴 研

きなり夏という感じで の初夏というよりもい 今年の気候は、

進めてきました。 過去最高の十五名にのぼり、 定期総会に始まり 県下の歴史関連団体調査も継続 定期総会当日に新たな入会者が、 一挙に二七七名になりました。 六月の探訪会と

ました。山田方谷の実現に向けては、 再来年は真田幸村が主人公に決まり い運動を進める必要があります。 協力団体として一層幅広く、 来年は吉田松陰の妹、文を主人公に、 定しております。 ころです。次回シリーズの講師も決 ズの歴研講座も第二回目を終えたと 始した佐藤顧問が講師の五回シリ 目が開催されました。 新しい署名用紙が用意されており NHK大河ドラマ化については、 歴研サロンも昨年から数えて六回 第二次調査を続けています。 ご期待ください。 今年度から開

会長 天野勝 昭 をお願い申し上げます。

ますので引き続きのご協力、

ご尽力

次頁に続く

食生活を考える上で貴重な資料

これは記録の少ない岡山城内で

である。ここでは、

江戸時代初期

込めたのは、 ないかと思われると話された。 村重は官兵衛の能力、人柄を認めて に乗り込んだ黒田官兵衛を牢に閉じ いて敢えて首を取らなかったのでは 反を翻すために一人有岡城(伊丹城 かつて親交のあった荒木村重の謀 男が男を識るで、

したのが官兵衛である。吉川英治の 高松に来た。高松城の水攻めを進言 衛は宗治に叛意を勧めたかもしれな 新書太閤記』にあるように、 下って、官兵衛は秀吉と共に備中 官兵



黒田美江子氏

道を選んだ。その時の心境が辞世の でてないとあの句はできない。黒田 素晴らしいと思っていた。文にも秀 句である。私は宗治公の辞世の句は 宗治は義を立て、潔く自害する

酸をなめた地である。それを忘れな

かせて」である。方円の器に従う水

如くに生きたということか。

つひにゆくみちはまよわじなるにま

辞世の句も「思ひおく言の葉なくて なかったのではないかと結ばれた。 た。巷間言われているような野心は

官兵衛は状況に応じて正直に生き

尋ねた。「黒田家にとって福岡は辛

があったのではないか」と黒田氏に 懇親会で「官兵衛は福岡に思い入れ 句としては最高であると語られた。 官兵衛は自分の城下を福岡とし 福岡と言えば、備前福岡である。

ている。

さんも俳句をやられていて、辞世の

演者

期を 中心にし

タガイ

中の段出土

貝殼

を描かせ、

忘れまいとしたことに似

て、直ちに絵師を呼び、

困窮した顔

きたかったというのが実感である。

それにしても時間を充分取って聴

"如水"と名乗った所以か。

康が三方ヶ原での大敗で駆け帰 いか」との答えであった。丁度、家 いようにとの思いがあったのではな

宴会和食担当 た表書院での食事情を紹介する 岡嶋隆司

二、出土品目

史跡保存整備事業

(H4~H7年度) に

史跡、岡山城本丸跡中の段では、

、はじめに

ホテルグランヴィア岡山

ると 出土した資料は、 種・鳥類4種である。 魚類8種· 貝類 品目別にみ

ブリ、 魚類では、コイ、スズキ、 フグ科 マダイ、ハタ科、フエフキダ ボラ、

後に廃棄された食物残滓が出土し 検出された当時のゴミ穴から食事 よる発掘調査が行われた。その際、

イガイ、 サザエ、テングニシ、アカガイ、 貝類では、アカニシ、 タイラギガイ、カキ、ツメ ハマグリ、

文献資料から本丸跡中の段に所在し

一六〇〇年代初頭)の出土品目と

タニシ ヤマド カモ科、 る。 リ は、 トリであ キジ及び シジミ、 鳥類で サギ ガン

魚類で

は、 イが一番多く出土している。これは 江戸時代前期後期を通してマダ

> 礼や接待などの宴席に用いられたも のと考えられる。 御殿の性格を表しているもので、 表書院という役所と迎賓館を兼ねた

たものと考えられる。 にも焼痕が認められるものがあり、 や塩ゆでなどに用いられたのであろ たようである。小型の蛤は、 認できるものがあり、 カニシ・サザエと続く。大型のハマ 大壺煎り=現代で言う壺焼きにされ グリは、一部の殻に焼いた痕跡が確 貝類では、ハマグリが また、サザエやアカニシの一部 焼蛤にしてい 一番多くア 椀の具

鳥類では、ガンカモ「次頁に続く」

り、 ている。 く食された鳥類であることがわかっ 科が一番多い。これは岡山城だけで 傾向ではなく全国的にも同様であ 江戸時代以前でも 般的にも良

第10号

ば、 にもつながる事から一般的に武家で は食しないとされるものである。 中毒を起こせば死に至り、 あろうか。 期の備前藩では規定が無かったので 厳しい罰則であったが、 令が出され、 州藩では、藩士に対してフグ食禁止 はフグ骨が出土している事である。 これらの資料の中でおもしろいの そのお家はお取りつぶしと言う もし中毒者が出たなら 江戸時代前 お家断絶

食材の提示だけではどの様な料理 上が出土資料の紹介であるが、



魚類·鳥類骨

中の段出土

する。 だったかは不明である。 資料により当時の料理の一 そこで文献 端を紹介

Ę 池田家の正月料理

る。 国である池田利隆公が書院で家老た 十四年 池田家の通史である。この中に慶長 ちと会食した記録が記載されてい 池田家履歴略記』は、 (一六()九) の正月に備前監 備前 藩主

ある。 代の私達の感覚では汁物のように思 達と御雑煮・羹・御盃を賜う。 出で給い蓬莱鏡餅をいただき、 く椀物のことである。 いがちだが本来は文字の如く煮物で つもの) て次の様な献立が出される。 先に本丸御殿にて雑煮と御羹 また羹とは吸物や汁物と同じ で御祝いをする。 後に御書院に 雑煮は現 そし (あ

あげ物 御本膳 膳 御汁こまごま 御汁鳫 なます牛蒡 焼鳥 御飯 小鯛ふとに 焼鮒 香

容的には本膳料理の形式である。 解説する 以上が記載された献立であるが内 海老さしみ 御汁鯛 以

①御本膳 (一の膳

> だに)煮」と考えられる。 された「ふとにあげもの」の二つだ く現代にも伝わっていない料理で、 げ物」は、 繁栄の意味を表す。 ので味噌仕立て。 まごま」は、 に酒と醤油で煮る「阿蘭陀 けしか記録がない。 この記載と前年正月に姫路城内で食 く伸びる事からその土地での安定と 鉢=当たり鉢など)。 牛蒡は地中深 有りの実、 を避けた記載であろう(類例、 で縁起を担いで「叩く」という言葉 なます牛蒡」 するめ=あたりめ、 古典料理書にも記載が無 材料を小さく切ったも は、 これは揚げた後 「小鯛ふとにあ 「たたき牛蒡 「御汁こ (おらん

②二御膳

えられ、

味噌漬けの可能性もある。

「香物」は季節柄大根などが考

③三御膳

用いたもので、 る。 るようになったのは幕末以降であ うに塩と薄口醤油で清汁仕立てを作 澄みが清汁仕立てとなる。 いておくと味噌が沈殿する。 仕立て。当時の清汁仕立ては味噌を 御汁鳫(がん)」 味噌を出汁に溶き置 清汁 (すまし) 現代のよ こ の 上

されているが鮒を背割りにして縦串 馬とは⁻ 「焼鳥焼鮒」 大型の鴨類で雁 は別のように記載 (かり) 0)

供していた。

「海老さ[次頁に続く]

酒などに山葵(わさび)を添えて

辛子味噌・辛子酢・生姜酢

たものである。

「海老さしみ」とし

た場合は、

現代のように醤油を用い

切り調味料を添えて供すようになっ

た料理で、

その違いは鱠よりも厚く

室町時代に鱠(なます)

から分かれ

老ささみ」とも解釈出来る。

刺身は、

「海老さしみ」とも読めるが

再現された慶長十四年正月朔日の本膳(-左奥: なます牛 : 小鯛ふとにあげ物 右手前:御汁こまごま 左手前:御飯

現代でいう雀(すずめ)焼きである を打って小鳥に見立てた小 焼き上がりに山椒味噌などを塗

う。 る。

紹

介

寸

年

さみ」とした場合、 に大根や蓮芋の笹がきを加えた が考えられる。 海老や貝類など 笹

になる。 膾と書き、 猪や鹿の肉を生で酢を用いて供して 用 いるようになり魚偏の鱠と書くよう いたところから付いたもので月偏の ちなみに鱠の語源は、 いた紅白なますであるが、これ 現代では主に人参と大根を 中世になると魚を主に用 奈良時代に

> になったもの。 は、 近代になってよく作られるよう

あり、 内容は同じでも汁物は御飯に添える 成になっていると考えて良い。 である。 仕立て・ 各膳に汁物が付くことである。 て方は膳ごとに変えるのが仕来りで 計鯛」 本献立の場合も膳ごとに味噌 清汁仕立て・潮仕立ての構 本膳料理の特徴の は、 潮 (うしお) つ 仕立 仕立 尚 は

> 立に書き分けるのが決まり事であ 吸物はお酒に添える物として献

物、

る。

が残されていない。 の記録となると全国的にも殆ど記録 いるだけで通常の食、 録は少なく儀礼や接待などの所謂 の食を紹介した。 晴 以上、 れの食」などが断片的に残って 簡単ではあるが岡 古い時代の食の記 また、 「褻 (ケ) の食」 出土した 山城内で

> 切痕などは確認できるが、 食物残滓も出土品目の同定と焼痕や 推定となると困難を極める。 料理法の

の立場から古い時代の料理を探って 考古資料と文献資料を基に食文化中 いきたい。 このような制限はあるが、 今後も

松井章)『らぴす』 掘調査報告書 【参考文献】 (乗岡実 岡 Щ (岡嶋隆司 市教育委員会発 岡嶋隆!

体 秦歴史遺産保存協議

会長 板野忠司

二六年三月現在)です。 迎えました。会員は三一〇名 四月に設立し、 秦歴史遺産保存協議会は平成三 今年で三年目を (平成 四四

は 私たちの秦地域 四世紀初頭の前方後方墳 (3 K m 四方) に

秦の郷」冊子及びガイドマップ

ろ古墳 はじめとする古墳群33基が発見さ えてあり、大きな謎となっています。 奥場古墳群等と合わせると60基を超 また飛鳥時代の県内最古の寺院跡 従来からあった金子 (一号墳 (総社市史跡指定) (かなご)・ を

神社、姫社 岐(まさき)神社・石畳(いわだたみ) られます。 中でも、 が数多くあります。 備中兵乱の荒平山城跡等の歴史遺産 であり岡山県指定史跡の秦原廃寺を 古くからの先進地域と考え 古代の式内社で磐座の麻佐 (ひめこそ) 神社 古代吉備の国の (福谷)、

> げました。 行うことを目的に当協議会を立ち上 政や歴史家等と協働して情報発信を 保存活動を行うと共に地元住民が行 これらの歴史遺産を研究・勉強し、

きな謎です。 いる渡来人秦氏と当地との関係は大 特にこれら歴史遺産と弓月の 君率

草刈 史便り* 跡めぐり、 主な行事としては、 かねてから準備を進めていた · 道路整備、 の発行などです。 総会及び講演会、 案内看板設置、 散策コースの ″秦歴 秦 史

と吉備

産は語る!総社市 これまでの講演会内容は①歴史遺 秦 からのメッ

問

などで、謎とロマンに満ちています。

マップが昨年完成しました。

郷

歴史遺産」

小冊子及びガイド



金子石塔塚古墳(直径 26 m円墳)

典子講師) 古墳からみた一丁ぐろ古墳群 歴史研究会会員)) (佐藤光範講師、 丁ぐろ古墳 (国) (武田恭彰講師 ④注目される秦氏のなぞ (山田良 岡 (武田恭彰講師 ③県南中西部 山歴史研究会顧 講 ② 謎 師 の秦氏 平井 岡山

第六回歴研サロン 元木村重とその子息、岩佐豆 5 / 27 参加47名

岩佐又兵衛 (浮世絵師の元祖) として有名である。 兵衛を有岡城の土牢に幽閉した悪役 前半は、 木村重とその子孫たち」を聴いた。 長に反旗を翻し、 竹本弘子氏による「戦国武将・荒 村重は織田信長の家臣だったが信 荒木村重、後半は、 説得に来た黒田官 息子、 の話。

手ぶらで返 た官兵衛を 説得に来

全国歴研雑誌に掲載

勘気に触れ 村重に官兵衛殺しを頼んだとか?村 る。毛利方についた主君小寺政職は

重と官兵衛は民と命を大切にする心

前の ▶演者 竹本弘子氏

(後に 「道薰」) と名乗り、

七哲として活躍したと話された。

るには、 れ殺さなかっ のか?ともあ しかなかった を持っていて 官兵衛を助け 土牢

利休

亡き後に出家 し、茶人「道 村重は信長

第九回探訪会 6 6 参加55名

官兵衛ゆかりの地巡り

が、いかに優れた軍師になり得たか **峯神社、** 着城址、 姫路にある官兵衛ゆかりの地、 端を知ることができた。 英賀神社を巡った。官兵衛 国府山城址、 職隆廟所 廣 御

堀とした大規模な構えでした。 兵衛は如何にして己の力を発揮した 赤松氏の流れを汲む小寺氏の下で官 る町ですが、 今はJR山陽本線の小さな駅のあ 御着城の位置と構えで 当時は天川という川を

廣峯神社で記念写真

の活躍、 師は、 す。その裏には、 の力です。 のか、その背景を知りました。 たことも私の興味を引きました。 神社に伝えたことか。 備が唐から陰陽道 情報を手中にすることができたので 三つは、 二つは、廣峯神社の御師 播磨は勿論、 同神社の繁栄に寄与して 神符(おふだ)を配る御 国府山城址です。秀吉の 岡山の先人吉備真 (天文学?) を同 美作、 その後の御師 備前等の (おし)

荒木村重に変わった。 てくれたと思った。 の一族皆殺しの中、よくぞ生き延び を大切にし、文化を愛する思慮深 に引き込まれ、 息子・岩佐又兵衛は、 村重の人物像が、

信長が村重

民

入り、 衛の絵の細かい描写の説明に、 ただ聞き入るばかり。 竹本氏の詳細に調べた資料と又兵 村重を見直した一日でした。 竹本節に聞き ただ

析していたからでしょう。 ました。それは御師からの情報を分 府山城に移ったことを知りました。 移ったと記憶しておりました。 本丸を秀吉に献上、己は二の丸に 中国攻めの際、官兵衛は、 官兵衛は天下の趨勢を知っており 姫路城を秀吉に差し出し、 姫路城 己は国

問点が解消できました。 宮司の説明、そしてなりより百聞は 見に如かずで、素人の私なりに 御着城址でのガイドや廣峯神社

しは、 灘菊酒造での昼食「秀吉の大返し 大満足でした

会員 永谷格夫)

-5-

日本の宗教、

文化、

産業など多くの分野で

参

加人数が段々少なくなったことから、

会費

五百円

来た。中でも秦氏が最大の集団と言われ

古代日本には数多くの渡来集団がやつて

お

知

5

誕

生

茶

話

会 せ

日時:11月7日(金)

7時45分

お知らせ

第七回「吉備邪馬台国東遷説_

日時

九月十六日

火

一時半

講師 場所 邪馬台国は吉備にあり、 岡將男氏 ゆうあいセンター 東遷して狗奴国 大会議室

代/保険/入館料)

讃岐探訪

集合:岡山駅西口バスセンター

参加費:6千円(バス代/食事

第十回探訪会

定員:50名(先着入金順) 探訪地 (高松市)

- ・讃岐国分寺跡(四国唯一国の 特別史跡) 及び資料館
- •田村神社(讃岐一宮)
- ・石清尾(いわせお)山古墳群
- 高松市歴史資料館
- 高松茶臼山古墳
- 久本古墳

讃岐うどん (昼食)

探訪場所の変更あり

秦氏の宗教との係わりなど話される。 わっている。宗教家のルーツや背景を探り、

講座一「古代日本語・地名語 から古代吉備を学ぶ_

場所 講師 第四回 第三回 第二回 □ ゆうあいセンター大会議室 7 6 5 9 27 22 24 ź0 火 火 火 火 参加24名 十時半 十時半~ 参加24名

を話される

第八回「秦氏と吉備

場所

ゆうあいセンター 十一月十八日 (火)

大会議室

日時

一時半~

講師

田良三氏(会員)

誕生させたという「吉備邪馬台国東遷説_

である大和を統合。

そして。

大和で政権を

第

目目

見学会①一乗谷朝倉

氏遺跡・福井市立郷土歴史

佐藤光範氏(顧問)

日本の古代国家成立に係わった。 秦氏は吉備の古代国家成立に大きく関

觽

福井県福井市

日目

式

典・

記

念講

演

祝宴

日時

十月十七日 十九日(日

金

博物館

·養浩館庭園

丸岡城 新田義

第五回 講座二「手遣いの民と足遣いの民」 10 28 火 十時半

稲作文化と牧畜文化

場所 講師 第一 口 回 ゆうあいセンター大会議室 Щ 20 11 亘氏 (火) 十三時半 (会員) 十三時半

三ヶ月に 会場 ブックサロン龍紅堂(倉敷市北畝) 度の割合で開催します。

墳、

一丁ぐろ古墳をはじめ、

多くの史跡が

散在する。

その歴史遺産、

財産を研究・勉

八~十月 五~七月 参加希望者は事務局へ申込を 誕生会 誕生会 7 10 30 25 十三時半~ 十三時半~

玉享氏 れました。おめでとうございます より文化財保護に貢献して協会賞を受賞さ 受賞 歳 会員で高梁市伊賀町在住の児 は岡山県文化財保護協会

全国大会 福井大会のご案内 10/17-19

第 ★参加希望者は岡山歴研事務局へ 目目 熊川宿 貞公墓所・越前松平家菩提所 (日本最古の天守閣)・ 見学会②国宝明通寺・ ·若狭三方縄文博物館

の中、 演 のような料理が食べられていたかを岡山城 してもらいました。 本丸の発掘時に出てきた骨、 お礼の意を込めて私が感想を書きました。 ■編集後記■ 総社市秦地区には四世紀初頭の前方後方 岡嶋隆司さんに江戸初期の岡山城内でど 非常に興味深く、 三百人が参集。 今年の定期総会には もっと聴きたかっ そして黒田さんの講 貝等から再現 た。

議会に活動状況を紹介して頂いた (楠

情報発信している秦歴史遺産保存協

岡山歴史研究会

発 会

長 行

天野勝昭

楠

敏明

事務局 編集長

話